

項目	具体的取組	成果と課題	改善策・向上策
1 教育課程・学習支援 教務部	<p>a) 主体的・対話的で深い学びができる授業実践を進め、生徒が自ら考え「課題解決を図る力」の育成を支援する。 <目標> ・授業満足度調査による満足度の目標指数70%</p> <p>b) 授業や実習では外部講師や企業の専門家を招くなど実践的な知識・技能の習得と、他者と意見を交換しながら学びを深める学習活動を支援する。 <目標> 主体的に学習に取り組めた生徒の目標指数70%</p> <p>c) 課題研究や学校行事、地域(企業)連携活動を通して、生徒が活躍し大きく成長していく姿を広く発信する。 <目標> ・ホームページやインスタグラム、学校新聞による情報更新を年間60回程度</p>	<p>○「授業内容が分かりやすい」と答えた生徒が全体で82.3%、「先生の説明が分かりやすい」と答えた生徒が全体で86.0%であった。教科によって多少のばらつきは見られるが、各教科において生徒の学習意欲に応じた分かりやすい授業を行っていると言える。 ○「あなたは、授業の中で、自ら考え、話し合ったり、他者と協力したりする活動に取り組んでいますか。」という生徒への質問に対して、「はい」または「どちらかといえばはい」と答えている生徒の割合が95.3%であった。今年度は特に課題研究において主体性を生かしたカリキュラム開発を行い、その成果が徐々に表れ始めている。 ○「あなたは、授業で出された課題や資格取得のための学習などに意欲的に取り組んでいますか。」という生徒への質問に対して、92.6%の生徒が意欲的に取り組んでいると回答している。検定試験に向けて、放課後や休業中の補習授業を積極的に行うなど、生徒の学習意欲に応える学習活動を展開している。 ○「あなたは、学校行事や生徒の活動などの必要な情報を得られていますか。」という保護者への質問に対して、81.7%の保護者が情報を得られていると回答している。本校ホームページの掲示板やインスタグラムへの投稿により、本校の学習活動を広く発信し続けていることが認知されてきている。</p>	<p>○分かりやすい授業の工夫については、ほとんどの教員が授業改善の努力を積み重ねてきており、その成果も見受けられる。一方課題として、「学習内容の面白さ」について十分に伝わっていない側面も見受けられる。今後の取組としては、学習内容に対する興味関心をより高めるような教材開発を行っていく。 ○課題研究では、外部講師の活用や行政・企業の支援を得て課題解決を目標に生徒主体の学習を進めていく。専門科目においては、地域企業と連携した実習や専門職の外部講師から学ぶ機会を設けるなど、今後もより実践的な専門学習を充実させる。 ○普段の家庭学習を「全くしない」と回答している生徒の割合が昨年度26.3%から今年度29.8%へと上昇した。本校では、少しでも家庭学習を充実させるため、検査前や各種検定前の放課後に学習会を開催している。また、面談等を行い、生徒に声かけを行っている。今後も、生徒自らが目標や学習計画を立て、自学自習に取り組む力を身につけさせる教育支援を継続していく。 ○本校の教育活動を載せたインスタグラムのフォロワー数向上のため、本校PTAの広報活動との協働を行ってきたい。 また、中学生への高校説明会においても本校のInstagramについてアピールしていく。</p>
2 生徒支援 生徒支援部	<p>a) 家庭との連絡を密にし、基本的な生活習慣の確立と、社会で求められるスキルの習得を図る。 <目標> ・生徒数に対する年間遅刻回数の割合が、1未満となることを目指す。 ・交通安全指導の徹底を図り、ルールとマナーの習得を図る。 ・高校生として評価される行動や身だしなみについて、自ら省みる態度を育てる。</p> <p>b) 多様な価値観を尊重し、地域社会に貢献できる態度を育成する。 <目標> ・自他の人権を尊重し命の大切さを考える環境を整え、緊急時には速やかに対応できる態勢を維持する。 ・学校内外の環境整備に積極的に乗り組み、地域社会の未来を共に考える態度を身につける。</p> <p>c) 生徒会を中心に生徒が自ら考え行動する態度を育成する。 <目標> ・登校時の挨拶運動、ボランティア活動など生徒会を中心とした積極的な活動を推進する。 ・自主的な行動により、校内の諸活動を活性化させる。 ・生徒自ら校則について考え、見直す態度を育成する。 ・生徒自らが積極的に取り組む学校行事のあり方を目指す。</p>	<p>○生徒の情報を教員間で共有し生徒からの些細な情報にも対応することで、諸問題に早急に対応してきた。保護者との連絡も可能な限り密に行った。 ○登校指導を通して生徒の状況を把握し、基本的な生活習慣の獲得を促した。生徒一人あたりの遅刻回数は昨年度の0.63回に対し0.52回と改善が見られたが、一部の常習者については改善させるまでに至らなかった。 ○頭髪・服装検査の年間平均の合格率は昨年度の91%から93%に向上し、目標を達成することができた。一部の生徒は通常時の服装の乱れが顕著になり、全職員で指導に向かう体制作りを行った。 ○生徒間の問題や悩みなどに積極的に応える体制を整えてきたが、全ての諸問題に満足に応えるまでには至らなかった。 ○定期的な交通安全指導を通し、交通マナーの指導向上に努めた。幸いにも大きな事故は無かったが、些細なけがなどは数件発生した。校外における自転車マナーについては、今後も継続して指導する必要がある。 ○SNSの適切な利用について、年間を通して継続的に指導を行った。大きな問題は起こらなかったが、今後も継続して指導を行う必要がある。 ○部活動が中心となり校外で行われたボランティア活動等を積極的に行った ○キャンパス統一に伴い諸行事の見直しを行い、生徒から広く意見を集め検討を重ね実施することができた。 ○生徒自らが積極的に各種活動に取り組み、特に部活動では多くの成果を収めることができた。</p>	<p>○生徒・保護者との信頼関係を保ち、基本的な生活習慣の乱れに対し、生徒個々の特性や家庭環境等に応じたきめ細かい指導を今後も充実させる。 ○継続した登校指導を通し、落ち着いた学校生活の維持に努め、一部の遅刻常習者の指導を継続して行う。 ○頭髪服装検査については、数値目標設定と全教員一丸となつての身だしなみの指導を継続するとともに、生徒自身が考え行動できる力の育成に努める。 ○集会や各クラスで交通安全意識の啓発を継続し、交通法規改正にもなるルールの理解や必要性の理解を促進し、安心安全な社会を構成する一員としての自覚を育む。 ○全国的にSNSの不適切な利用が問題となる中で、他人事と捉えず自身の行動を見直す中で適切な行動ができる資質の向上に努める。 ○生徒会の自主的活動を推進し、挨拶・美化運動を継続する。ボランティアなど自主的活動で多くの生徒が参加するよう働き掛けを工夫するとともに、キャンパス統一による新たな可能性を探る。 ○自主的な部活動への取組を維持し、活動のさらなる活性化と、部活動を通じた活気あふれる学校の実現を目指す。 ○生徒会と連携し、ホームページ、Instagramでの生徒の活動状況を発信することで、本校の魅力の発信に努める。</p>
3 進路支援 進路支援部	<p>a) 校内におけるキャリア教育の充実化と、地域と連携した学び、地域と協働した学びを通して、生徒のキャリアデザインを支援する。 <目標> ・生徒一人ひとりの進路実現のための行事や相談を充実させることで、進路活動を支援し、学校評価アンケートの進路項目において、90%以上の評価を目標とする。</p> <p>b) 地域の企業や学校と連携している、企業説明会や職業講話、学校説明会により、近年の進路動向を理解し、最新で適切な進路情報を提供する。 <目標> ・進路情報を通じて、生徒の進路活動の充実化を図り、学校生活全般に対する意欲の向上を目標に掲げ、90%以上の評価を目標にする。</p>	<p>○キャンパス統一に伴い、職業講話や地元企業の職場見学などの進路行事を通して、工業学科、商業学科共に、キャリア教育を充実させることができた。また、1・2年学年会それぞれが中心となり、進路ガイダンスを計画・実施することにより、進路選択意識を高めることができた。3年生は労働局や教育関係業者、教職員等の連携・協力もあり、面接指導の充実化を図ることができた。進路情報提供と進路決定に関する満足度において生徒は90%以上を達成することができた。 ○1・2年生では、様々な機会で、地元企業経営者や人事担当者による説明会を通して、地域産業や近年の労働環境に関する知識を得る機会を得られ、職業理解に繋がった。また、各種進路ガイダンスや資料提供により、自身の進路選択に主体的に取り組むことができた。3年生は、進路情報の提供や、面接・小論文指導を丁寧に行うことで、90%を超える生徒満足度に達することができた。 ○1・2年生対象の就職・進学合同説明会は、学校行事としての位置付けとなり、充実化してきている。特に、就職に関する企業説明会では、サマー求人企業説明会を補う行事となっており、若干ではあるが、年々参加企業が増えており、応募企業選択に関する理解を深められた。 ○キャンパス統一初年度ではあったが、進路支援行事を計画的に実施できた。保護者に対しても、進路情報提供を継続して充実化させていくことが、今後の課題である。</p>	<p>○1、2年生は、就職・進学合同説明会後に進路希望調査を実施する。就職・進学に関連する各種ガイダンスを学年会と連携をとりながら、進路希望動向を照らし合わせ、効果的な進路意識向上に繋げていく。 ○専門高校としての就職や進学に対応できるよう、面接指導や小論文指導、進学補習などを計画的に実施する。 ○進路に関する情報を、各学年会との連携・協力を深め、情報の共有と適切な進路支援体制を確立していく。 ○保護者に対して、進路情報を提供・支援したりする機会を設け、進路に関する重要事項を得られるようにする。特に、各学年会の連携・協力を得ながら、就職の応募先や進学先の受験情報を確実に保護者と共有できるようにする。 ○教育関係業者が提供する教育サービスを利用し、本校の進路状況を考慮しながら、最適な進路支援を推進していく。 ○学校ホームページや進路だよりを定期的に更新し、進路情報の発信に努める。 ○キャンパス統一に伴う課題を、継続して取り組み解消することで、商工高校としての進路支援事業が達成できるようにする。</p>

<p>4 保健管理 保健部</p>	<p>a) 自分の健康に関心を持ち自己管理をするとともに、他者の健康にも配慮できる生徒を育成し、感染症流行期には流行状況について把握し、予防策を身に付け行動できるよう支援する。 <目標> 感染症を予防するための行動が取れた生徒の割合90%以上</p> <p>b) 教室や学校施設の清掃を徹底し衛生的な学習環境を保つことができる生徒、環境保護の意識を持ってゴミの分別に取り組める生徒を育成する。 <目標> しっかり清掃に取り組み、ゴミの分別や身の回りの整理整頓に取り組める生徒の割合80%以上</p>	<p>○手洗いや換気、マスク着用を含む咳エチケットなど、感染症対策を適切に行っていると答えた生徒が約89.7%、自分の心身の健康管理が適切にできていると答えた生徒が約88.4%であった。新型コロナやインフルエンザに関しては、急激な流行が起こることもあった。</p> <p>○校舎・校庭・教室などの環境を美しく保つよう、清掃等を通して努力したと答えた生徒が約97.3%、ルールに従って適切にゴミの分別を行ったと答えた生徒が約99%であった。大部分の生徒はまじめに、清掃やごみ分別を行っていると言える。ただし、教師の目の届いていないところでは、清掃やゴミ分別への意識がややゆるくなることもあった。</p>	<p>○うがい、手洗い、教室の換気など、感染症を予防するための行動が自主的にとれるよう、今後も指導していく。また、日頃から睡眠、運動、食事について意識させるなど、体調維持に努めさせたい。</p> <p>○ゴミステーションでは職員や保健委員が中心となり、分別についての具体的な指示を継続して行っていく。</p> <p>○スクールカウンセラーとの連携を大切にしながら、アンケートやカウンセラー通信のICT活用を進め、心の健康相談が気軽にできるような体制を整える。</p>
<p>5 図書支援・保護者との連携 図書庶務部</p>	<p>a) 図書室の環境を再整備し、新着本の情宣・朝読書の充実を通じて図書利用の促進に努める。 <目標> ・読書量において、年間1冊以上読む生徒の割合が80%以上を目指す。</p> <p>b) 行事案内においてPTA広報紙・学校メールを活用し、行事への参加を増やす。 <目標> ・PTA関連行事への参加者を、各クラスから複数名出るように配慮する。</p>	<p>○朝読書を通じて、読書に親しむ生徒が増えている。 ○新着図書的情宣を行い、利用者を増やしている。 ○定期的に朝読書を行うことで、読書の質量が維持・向上するのではないかと期待する。 ○評議員会等出席率が低いことが課題である。</p>	<p>○家庭内での読書の質、量を増加できるよう生徒の読書に対する意欲を高めるための生徒向けの掲示を行いたい。 ○朝読書を定期的に行い、新刊紹介等生徒の興味関心を引いて読書の質・量を向上させていきたい。 ○会議においては役員からの声掛けや出席依頼をお願いすることで出席率を上げていきたい。</p>
<p>6 その他 (工業科)</p>	<p>a) 基礎・基本、安全教育に重きを置き、実習・課題研究・就業体験・現場見学を通じて、工業技術者として必要な知識や技術・技能を主体的に身につけるように支援する。 <目標> ・課題研究では、地域の企業や官公庁、大学等と連携しながら地域貢献を推進する。課題研究の発表を通してプレゼンテーション能力の向上を目指す。</p> <p>b) 福井フューチャーマイスター事業を活用し、様々な国家資格に積極的に挑戦し、合格を目指して主体的に学習に取り組むよう支援する。 <目標> ・工業学科共通で受験する基本となる資格の合格率60%以上。</p>	<p>○実験・実習の決まりや手法を守り、安全な作業や服装、整理整頓、清掃、機械や工具等の点検を意識しながら取り組んでいる生徒がほぼ100%であった。 ○現場見学・工場見学を適宜開催し、実際に現場で使われている技術を学ぶことができた。 ○課題研究発表会での発表を通して、学ぶ姿勢、発表方法、聴く力などを向上することができた。 ○工業科全体で福井フューチャーマイスターの認定を目指し、資格所得に取り組んだ。全国工業校長会主催の計算技術検定3級では76%と目標の60%を上回った。 ○商工デパートに参加し、学校祭を盛り上げた。 ○課題研究では地元企業、行政および教育機関等と連携して取り組むことができた。 ○聴衆者にわかりやすいスライドを作成し、研究成果を発表することができた。</p>	<p>○基礎基本・安全教育に重きを置いたうえで、実習・課題研究の内容を充実させる。就業体験・企業見学を通じて、工業技術者として必要な知識や技術・技能を積極的に身につけさせる。 ○工業学科共通で受験する基本となる資格においては、合格者が増えるようタブレットやICT機器を活用し、生徒一人一人の学習状況を把握しながら取組方法を工夫する。 ○各学科で将来、必要あるいは有用な資格の精選に進め、取組方について検討する。 ○2、3年の課題研究等を通して、他学科や地元企業等との連携を図る。 ○校内課題研究発表会に向けて、各科において効果的なスライド作成や発表態度、質疑応答への対応等の向上を図る。</p>
<p>7 その他 (商業科)</p>	<p>a) 課題・補習などを併せた適切な進捗計画により、各商業科目における目標資格級の取得率向上に取り組む。合わせて、福井フューチャーマイスターの認定を目指す。 <目標> ・資格取得の指導についての目標指数(進捗計画に沿って適切な資格取得のための課題を提供できた割合) 80%以上を目指す。</p> <p>b) 授業におけるグループワークや探究活動において、生徒が他のメンバーと協働的に取り組むことを目指す。 <目標> ・協働の指導についての目標指数(他の生徒と協働的に取り組めた割合) 80%以上を目指す。</p>	<p>○教職員および生徒の評価はいずれも、目標を十分に達成している。一方で、福井フューチャーマイスター(FM)に対する保護者の評価については、「判断できない」とする回答がやや多く見られた。要因は1・2年生の保護者に対して、福井フューチャーマイスター(FM)に関する具体的な概要やデータが十分に示されていない点と今後受検予定である最上級資格・検定の結果が、まだ反映されていない点である。 ○冬休みの簿記補習をはじめ、各種検定試験に向けた対策を継続的に行っている。商業科のフューチャーマイスター上位認定を目指そうとする生徒の意欲は高いものの、資格の取得率についてはやや低下している現状がある。検定試験直前の指導が学校行事等と重なり、大雪による臨時休校などにより、十分な時間を確保できなかったことも一因であると考えられる。 ○協働についての教員・生徒の回答ではかなり高い割合で目標を達成できている。一方で保護者の判断できない割合がやや多い。</p>	<p>○学校ホームページやInstagramを活用し、資格取得に向けた生徒の取組や成果を積極的に発信していく。 ○日頃の学習活動や検定に向けた努力の過程を可視化することで、福井FMの意義や到達目標への理解促進を図る。 ○冬休みの簿記補習をはじめ、各種検定試験に向けた対策を継続的に実施していく。 ○検定試験に向けた指導内容や、学習計画の工夫に取り組んでいく。 ○ホームページやPTA会報等を通して、協働的な学習活動や生徒の取組の様子を発信していく。活動の成果だけでなく、話し合いや役割分担などの過程を伝えることを重視していく。</p>